受験奮闘記～桜修館中等教育学校～立教大学観光学部①

「ボクが学んだこと 石川塾との出会い」 T. SUZUKI

これから隔週にわたって、現役大学生で現在石川塾の講師を勤めている私・鈴木の中学入試と大学入試の体験記を連載していきます。はじめにお断りいたしますが、僕の体験記はあくまでも僕だけの体験です。「こういう勉強をした」「こういう生活を送っていた」ということを記述しますが、「こうした方がいい、こうすべきだ」という考えは毛頭ありませんので、“受験日記”みたいな感覚で読んでいただけると幸いです。

さて、私が石川塾に出会ったのは今から 10 年前になります。当時私は小学 4 年生でしたから、今指導している生徒たちの多くはまだ生まれてすらいません。石川塾に入る前から私は、ぼんやりとではありますが中学入試を視野に入れていて、それがきっかけで母が石川塾を勧めてくれたのです。中学入試を考え始めたのは小学 2 年生の頃。テレビの「高校生クイズ」で東京の開成高校が優勝したのを見て、かっこいいなと思ったからです。それをきっかけに「頭がいい学校に入ってあの高校生みたいになりたい」と進学校への憧れを抱くようになりました。

当時の石川塾のカリキュラムは今とあまり変わっていません。変わったのは連絡帳とカラーコピーが導入されたくらいです。はじめに朗読暗唱をやり、百マス計算をしてそのあとは「嵐の中の灯台」「理想の国語教科書」を使った要旨要約をこなしました。そうだ、要旨要約といえば「100 字トピックス」というカリキュラムもありました。読売こども新聞等を購読して、その中から気になったニュースを 100 字でまとめるというものです。そういえばここに戻ってきてからこれをやっている生徒さんは見ていませんね。結構難しいのですよ。その他にも、齊藤孝の「国語力シリーズ」で国語の文章題を解きました。文中から手がかりとなる部分を見つけて答えを導く力をつける課題なのですが、これが後になって大学入試のときに役立つのです。今嫌々やっている生徒の皆さん、よく覚えておいてくださいね？(笑)

石川塾でやったカリキュラムによる成長は、これまで通った塾で学んだどんなものよりも大きなものだと思っています。一見単純そうに見える朗読暗唱や百マス計算も、今になって考えるととても重要な力を養成するものなのです。基礎ほど大事なものは無いんだなと今になって理解できます。

まず朗読暗唱ですが、単純にものを覚える力がつくだけではなくその文章への知識も深めることができ、教養が身に着きます。例えば「平家物語」や「枕草子」などは中学の古文の授業でも取り扱う文章です。石川塾の朗読暗唱でその文の暗記や内容把握をしていれば、「あ、これ石川塾でやったなぁ」「そうそう、こういう文章だったよね」と思い出して周りの誰よりも早く文を理解することができます。また、大人になったときでも会話のネタや知識披露で他人から一目置かれるようにもなります。「そんなモノ必要あるの？」と思うかもしれませんが、意外と使えます。社会に出てまだ少ししか経っていないひよっこが言うのもなんですが、社会に出ると年長者と関わるシチュエーションが必ずあります。そこで自身の教養の良さを披露すれば「この子頭いいな」「そんなこと知ってるんだ、すごいなぁ」と思われて、その人との人間関係が上手くいくことがあります。朗読暗唱は人生においての“予習”になるのです。

百マス計算に関しては、多くの生徒さんが「ムダ」と思っているかもしれません。今やスマホの電卓機能でポチポチやれば答えが出る世の中ですからね。しかしこれが学校の数学のテスト、高校・大学入試の場だとしましょう。電卓は使えません。大きな数字から小さな数字まで、全部自分で計算しなければいけません。そこで問われるのが「スピード力」と「集中力」です。計算を素早く行わないと制限時間内に問題を終えることができません。日々石川先生から容赦なく「スピード」と「集中」を叩き込まれているのは、こういった試験の場で無駄なく正確に計算をすることがとても重要だからです。

「教養」「スピード力」「集中力」を鍛えることができたのは、ここでの重大な成果です。元々私は計算のできる子だったのですが、いかんせん集中が長続きせずに問題を一つ解くのに結構な時間を費やしていました。今や「世間では名の通る大学」の学生ですが、10 年前は今現在いる生徒さんと同じような状況でした。しかし石川塾の授業を経て、1～2 時間は持続できる集中力と文系知識を得ることができました。石川塾でこれらを養っていなければ、今の私はいないでしょう。皆さんも石川塾でこの 3 つの力をしっかり身につけることができたならば、私と同じ、いや、私よりも上を行く大学生になれる…はずです。

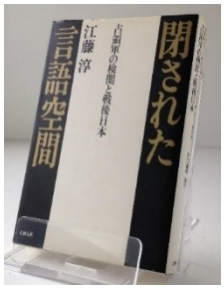
さて今回は石川塾での思い出や成果話に終始しましたが、次回から本格的に「桜修館中等教育学校」及び「立教大学観光学部」の受験奮闘記を綴っていきたいと思います。次回もどうぞよろしくお願いいたします！！

(毎月 1 回第 2 日曜)石川塾 日本の歴史を知る朗読会(無料です)☏042-710-5768

第 11 回:4 月 14 日(日) 石川塾　10:00～11:30

テキスト:江藤淳「閉ざされた言語空間～占領軍の検閲と戦後日本～」

第一部 アメリカは日本での検閲をいかに準備していたか

第二部 アメリカは日本での検閲をいかに実行したか　(文春文庫￥740)各人購入下さい

(朗読者:石川塾長/林史雄弁護士/理科教師:縄文・リー/スタッフ:渡邊/鈴木/飯田ほか)